

最大10日といわれた大型連休も終わり、日差しがまぶしい季節になりました。現在会員登録数1,962人さま。次号は6月21日発行の予定です／

＋-----◇◆◇ 目次 ◇◆◇-----＋

【1】お知らせ

【2】コラム

《1》この本読んだ？

《2》イーハトヴ周遊 宮沢賢治の童話を読破する

《3》読書活動ボランティアのためのワンポイント 69

《4》行って来ました！

【3】全国のイベント紹介

【4】プレゼント

■-----■

【1】お知らせ

■-----■

● エミリー・グラヴェット講演会の報告集を発行しました

今年2月に開催しました、イギリスの絵本作家エミリー・グラヴェット講演会「絵に生きる」（主催：国立国会図書館 国際子ども図書館、大阪府立中央図書館、一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団）の報告集を発行しました。グラヴェットさんの講演、質疑応答、子ども向けワークショップの様子などを記録しています。実費で販売いたします。

発行：当財団 2016年3月 A4判48頁 1000円＋税

● 寄付金を募集しています

当財団の運営を応援いただける個人、法人の皆さまからのご寄付を募っています。寄付金は、当財団が行う講座・講演会など、さまざまな事業経費に充てさせていただきます。ぜひ、ご協力いただきますようお願いします。

お申し込み、詳細は → <http://www.iiclo.or.jp/donation.html>

■-----■

【2】コラム

■-----■

\*\*\*\*\*

《1》この本読んだ？ Yasuko's & Takeo's Talk

\*\*\*\*\*

『トンヤンクイがやってきた』岡崎ひでたか/著 新日本出版社 2015年12月  
対象年齢：中学生以上

あらすじ：日中戦争が始まる1937年から終戦の1945年までの中国、無錫に住む少年ツァオシン（10歳～18歳）と東京に住む武二（8歳～16歳）の戦争体験を時系列で交互の章で描いた作品。ツァオシンは赤ん坊以外の家族を

日本兵（＝トンヤンクイ＝東洋鬼）に殺され、旅に出て叔父を見つけ、故郷に帰って抵抗運動と関わる。武二の母は赤十字の従軍看護婦として中国へ行き、武二は東京大空襲を経験する。

Y：中国と日本の少年を交互に描くことによって、中国と日本の子どもにとっての戦争を同時に体験することができたという点がとても印象深かったです。

T：最近の児童文学作品やYAには、章ごとに視点を交えてオムニバス風に描く手法が多くみられるけれど、その手法を戦争児童文学に持ち込んだのは初めてではないでしょうか。

Y：ツァオシンに寄り添って読むと、彼の家族を殺し、米を取り上げる日本兵を憎く思いますが、武二の兄が新米兵として命の危険にさらされると感情移入してしまう。また、武二が学校で教練の名のもと、陸軍伍長に理不尽に殴られるのを読むと戦争とは何かについてますます考え込んでしまう。自分自身の心の揺れを感じながら読みました。

T：ツァオシンと武二には多くの共通点があります。まずは、向こう見ずで、エネルギーに満ち溢れ、世間の思想に取り込まれやすいという性格が似ています。しかしながら、家族を失い、深い悲しみとともに生きる中で、生き延びるために、自ら考え、行動していくようになります。

Y：著者や身近な人の体験、戦争中の「コメ問題」についての丁寧かつ真摯な取材によって、作品がリアルに感じられました。

T：感情論で描くのではなく、歴史的事実をわかりやすく説明し、随所に「日中戦争のはじまり」「東京大空襲」などの解説を差し込むことで、小学校高学年でも読めるようになっていたと思いました。

Y：この本は今年の日本児童文学者協会賞を受賞しました。そして、残念ながら、作者の岡崎さんは受賞の知らせを受けて数日後に87歳でお亡くなりになりました。

T：先ほどの視点を駆使した描き方、銃後ではなく、従軍看護婦として戦争に関わる女性を描くなど、「新しい戦争児童文学」といえる作品だと思います。この本が受賞してよかったです。

\* 今回のゲストは当財団の宮川健郎理事長（T）です。

\*\*\*\*\*

《2》イーハトヴ周遊 宮沢賢治の童話を読破する

\*\*\*\*\*

第9回「紫紺染について」

〈山男〉～近代を虚構する前近代なるもの～

本メルマガ第7～8回でとりあげた作品には、いずれも深い山や森に住む大男の〈山男〉が登場します。その風貌の特色は、〈黄金色の眼〉〈赤い顔〉、そして〈ばさばさの髪〉。里で暮らす人々とは明らかに異なる、不可思議な力を持つ存在として描かれていました。

賢治は自作に山男を多く登場させていますが、「紫紺染について」もこうした〈山男もの〉として知られる作品の一つです。

物語は、昔は名高いものだった〈紫紺染〉という盛岡の産物が、〈明治になってからは、西洋からやすいアニリン色素がどんどんはいつて来〉て〈一向はやらなくなってしまう〉、それが昨今見直されて〈県工業会の役員たちや、

工芸学校の先生〉が研究を重ねて〈東京大博覧会〉で〈二等賞〉をとるまでの苦労話として語られます。

紫紺染とは、〈紫紺という桔梗によく似た草の根を、灰で煮出して染める〉こと。製法も染方も既にわからなくなっていたため、先生が昔の古い記録を調べたところ、山男と紫紺の意外な接点を知ります。それは西根山の山男が紫紺を掘って町で売り、そのお金で酒を買うというものでした。そこで、紫紺染について知るべく、先生は山男を招待する会を企画、手紙を書いて投函します。

約束の時間、これ見よがしに〈大きな桔梗の紋のついた夜具〉を来て現れた山男。しかし会に集った者の期待を尻目に、紫紺については知らないと言います。失望した参加者はめいめい勝手に飲んだりし始めますが、やがて酒が入るうちに山男は紫紺について語り始めます。

興味深いのは、本来は前近代的な存在であるはずの山男が、〈手紙〉〈郵便〉によって情報を得、〈人力車〉に乗って〈西洋軒〉に駆けつけ、〈扇風機〉がまわるなかで〈椅子〉に座って〈極上等のパンやバター〉を食していることであり、また事前に町はずれの本屋で〈「知って置くべき日常の作法。」という本〉を買って近代人としての自らを虚構していることです。

一般に、山男は中世以降の伝承譚、怪談集や民俗的資料に記録される怪異であり、人間とは異なる存在ですが、賢治童話においてはこうした怪異的存在でさえも、近代西洋主義的な論理に組み込まれつつある状況が描き出されているように見えます。前近代の豊かな精神風土が色濃く残る郷土・東北を愛したからこそ、近代という時代の到来によって失われ、壊れつつあるものの現実を賢治は書き留めたかったのではないのでしょうか。（ペ吉）  
（本文の引用は、角川文庫『ポラーノの広場』によりました。）

\*\*\*\*\*  
《3》 読書活動ボランティアのためのワンポイント 69  
\*\*\*\*\*  
その10 学校でのおはなし会（1）なぜ、学校でのおはなし会をするのか。

ボランティアの学校でのおはなし会については、これまでいろいろなところで少しずつ書きましたが、ここで少しまとめて書きたいと思います。この連載を読んでくださっている方にも学校でのおはなし会をされている方が多いと思います。

みなさんは、なぜ、学校でのおはなし会をされているのでしょうか。一番考えられる答えは、「子どもたちに本の楽しさを伝えたいため」ではないでしょうか。この目的はとても大切だと思います。まず、子どもに本の楽しさを伝える人自身が本の楽しさを知り、それを子どもにも伝えたいと思うことは、おはなし会の根本だと思います。

では、最近学校司書も増えてきた、クラス担任の先生も熱心で子どもたちに本を読んでくれるという状況であれば、ボランティアとして学校へおはなし会に行く必要はないのでしょうか。私はたとえ、こんな状況であっても、ポ

ランティアとして学校へ行く意義はあると思います。

それは、地域の人たちが学校に関わるという意味があると思うからです。そして、子どもたちは、担任の先生や学校司書とは異なる視野や価値観を持った人に本を通して出会うことによって、より広い視野や価値観を得ることができるという意味で意義深いと思います。つまり、活動を行うボランティアにとっては、地域の文化に貢献する社会活動になります。

ボランティアグループの中には、自分の子どもが通っているクラスまたは学年は担当しないというルールを作っているところがあります。自分の子どもが通うクラスや学年でおはなし会をしてしまうと、おはなしの楽しさを届けるという目的から、自分の子どもや知っている子どもの様子を探るといった目的になってしまいがちになること、子どもの中にも自分の親が教室に入ることなどで落ち着かない気持ちになることがあることなどが理由です。

また、教室内で起きたことについては守秘義務があり、自分の子どもや同じ学年の子どもの教室で起きたことの方が守りにくくなることもあります。地域の子どもの本を楽しむことが目的であれば、自分の子どものいるクラスや学年でおはなし会をする必要は全くないのです。

\* 次号は「その 10 学校でのおはなし会 (2)」の予定です。

質問や意見をいただきましたら、お答えしていきたいと思います。(Y)

\*\*\*\*\*

《4》 行って来ました！

\*\*\*\*\*

美術館「えき」KYOTO で5月22日まで開催されている「サザエさん生誕70年記念 よりぬき長谷川町子展」に行ってきました。「サザエさん」の作者である長谷川町子(1920-1992)の生涯とさまざまな仕事、「15歳の天才少女」、「サザエさん登場!」、「いじわるばあさん」、「町子の絵本」、「うちあけ話」の5章に分けて、原画約100点や掲載紙で紹介されています。

長谷川町子は15歳でデビューし、「サザエさん」以前にもたくさんの仕事をしています。田河水泡に弟子入りする時に持参したスケッチブック、「少女倶楽部」や「講談社の絵本」の漫画集に掲載された作品、「国民五年生」に掲載された「少年少女西洋名作選」(村岡花子文)の挿絵、着せ替え人形や便箋用のイラスト、初めて新聞に掲載された子ども向けの作品など、いろいろな仕事が紹介されていました。

「サザエさん」は、終戦翌年に疎開先の福岡で「夕刊フクニチ」で連載が始まり、その後、「朝日新聞」に移ります。1974年まで長く続いた連載は、ファッションや電化製品、海外旅行、三億円事件など昭和の時事や暮らしの移り変わりがサザエさん一家を通して描かれています。新聞に掲載した作品を単行本やよりぬき版にするために、新聞用の原画を切り貼りして作り直したり、新しく描き直したそうで、並べて展示されていて見比べることもできました。町子がオチを悩んでいる草稿や、面白さの自己採点表などもあり、描き続ける苦労を垣間見ました。単行本の表紙のカラー原画は、いろんな絵柄やデザインのの一つ一つが楽しく、見飽きませんでした。

「いじわるばあさん」などの毒気のある作品もあれば、擬人化された動物や、わかめちゃんが主人公の色がきれいな絵本もあり、大人にも子どもにも人気があったことがわかります。1978年に新聞に連載された「サザエさんうちあけ話」の絵文字で描かれた自伝的なマンガは、子どもの頃にリアルタイムで読んだ記憶があり、懐かしかったです。

現在でも人気のある長谷川町子の生涯を知ることができ、たくさんの作品も読むことができ、楽しい展覧会でした。(K)

---

### 【3】全国のイベント紹介

---

#### ● 新刊書研究会「2015年子どもの本」

昨年出版された児童書を通して子どもの本の世界に触れてみませんか。知識を広め、子どもの本の楽しさを広げていく学びの場になると思います。

講 師：土居 安子（大阪国際児童文学振興財団 総括専門員）

日 時：6月12日（日）午後1時30分～4時15分

会 場：堺市立南図書館（堺市南区茶山台）

資料代：有料

主 催：子どもの読書と教育を考える会

#### ● 講演会「ユーモア絵本ができるまで」

読み聞かせライブやサイン会もあり、親子で楽しめる講演会です。

講 師：岡田よしたか（絵本作家）

日 時：6月19日（日）午後2時30分～4時

会 場：大阪狭山市立公民館 3階大集会室（大阪狭山市今熊）

定 員：200名（当日先着順）

参加費：無料

主 催：大阪狭山市立図書館

上記イベントの詳細およびその他の講座・講演会、展示会、公募情報については、こちらからご覧ください。↓↓

[http://www.iiclo.or.jp/03\\_event/04\\_other/index.html](http://www.iiclo.or.jp/03_event/04_other/index.html)

※イベント情報をお送りください。当財団HPに掲載させていただきます／

---

### 【4】プレゼント

---

今号の【1】お知らせで紹介しました「エミリー・グラヴェット講演会報告集」を1名の方にプレゼントします。ご希望の方は、メールで件名「メルマガNO.69 プレゼント希望」とし、(1)お名前 (2)郵便番号・住所 (3)電話番号 (4)メールアドレス、よろしければ(5)このメルマガのご感想をお書きのうえ office@iiclo.or.jp にお送りください。

締切は6月10日（金）、当選発表は発送をもって代えさせていただきます／

編 | 集 | 長 | の | つ | ぶ | や | き |

「連休はどこかに出かけられましたか？」と挨拶代わりに聞かれて、返事に

窮した。予定していたサッカー観戦 1 回と予定外の病院に 2 回、それだけ。  
この時期どこへ行くにも、お金ばかり高くて混んでるしねえ…。  
そもそも週勤 2 日の身としては、普段とあまり変わらないのだ。病院は案外  
空いていて 2 日で 5040 円なら、まあお手頃か…。(A)

---

みなさまのご意見・ご感想をお聞かせください。下記メールアドレスまで  
お願いします。原則として返信はいたしませんのでご了承ください。

●このメールマガジンは、ご登録いただきました皆様に配信しています。

●配信の登録・解除・変更は、

[http://www.iiclo.or.jp/m1\\_magazine/index.html](http://www.iiclo.or.jp/m1_magazine/index.html) パソコンからどうぞ

●このメールの送信アドレスは配信専用です。

●記事の無断転載はご遠慮ください。

---

発行：一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団 <http://www.iiclo.or.jp/>  
〒577-0011 大阪府東大阪市荒本北 1-2-1 大阪府立中央図書館内  
TEL：06-6744-0581 FAX：06-6744-0582 E-mail：office@iiclo.or.jp

---